全国科学館連携協議会東海ブロック
2022 年度東海ブロック研修会報告書

2023 年 2 月 26 日
2022 年度東海ブロック幹事館
静岡科学館

1. 概要

研修会は 2023 年 2 月 9 日（木）に静岡科学館及びにオンラインの併催という形で実施し、東海ブロックとしては、コロナ禍では初となる現地対面形式での開催ができた。研修会冒頭で参加 10 館の来館者状況を共有したほか、連携協を代表して毛利会長より挨拶があった。事例発表のテーマは「各館の企画展のオモテとウラについて」と設定し、5 館から発表があった。また、静岡科学館で開催中の企画展をオンライン中継して紹介した。

2. 当日スケジュールおよび研修会参加館

開催日：2023 年 2 月 9 日（木）13 時～15 時 30 分
開催場所：静岡科学館及び Zoom を用いたオンライン形式の併催
参加館：東海ブロック 8 館、東海ブロック以外から 2 館及び連携協事務局
現地参加：6 館 13 名及び連携協事務局 2 名
オンライン参加：5 館 9 名及び連携協事務局 2 名
※別紙 1 参照。

3. 参加者紹介および各施設のコロナ禍からの回復状況共有

研修会の冒頭に、参加館及び自己紹介を兼ねて、コロナ禍でのイベント対応や来館者数の回復状況を中心に各館の状況報告をしてもらった。各館ともに来館者数は回復傾向にあるということとが共有されたほか、アフターコロナの事業対応、3 月からのマスク着用自由化後の対応等の検討状況が報告された。

4. 事例発表「各館の企画展のオモテとウラについて」

事例発表テーマは、これまでの企画展を例に、その特徴や来場者反応、展示の見せ方や体験手法、他施設との連携協力など展示や運営の工夫、企画展開催におけるテーマの決定方法、協賛等外部資金調達などを共有し、より良い企画展にするためのノウハウを共有することを目的として設定した。各館質疑込 15 分で発表し、静岡科学館、ディスカバリーパーク焼津天文科学館、浜松科学館、名古屋市港防災センター、名古屋市科学館の 5 館から発表があった。

静岡科学館は過去 4 年間の企画展画像を中心に、企画展を制作していく中で気をつけているポイントとして「みる・きく・さわる」で展示物を用意することと、目を引く・写真映えする・非日常的な（常設展示では扱っていない）展示物の確保、準備の人手や予算、広報効果の苦労を紹介した。

ディスカバリーパーク焼津天文科学館は、年 4 回の企画展準備を 2 名で対応していること、うち 3 回を自作し、イルミネーションやセンサー類も自分たちでプログラミングして制作していることを、実際に企画展紹介動画を用いながら紹介した。

浜松科学館は 21 年度に開催した「身近で気になる昆虫展」について紹介した。他の昆虫展と

してやりがちな目立つ昆虫を紹介するのではなく、都市部で身近な昆虫をコンセプトとして設定したこと、SNS を用いて 2 万件の身近で気になる昆虫のデータを集め、そこから選んだ 50 種類を中心にハンズオン展示で紹介したこと、終了後もオンラインで全内容を紹介したことが報告された。

名古屋市港防災センターは他館と違い企画展スペースが 34 ㎡と狭いため、パネル展示を中心に年 4～5 回、基本的に展示内容は 1 名と監修者、デザイン及びポスター作成 1 名で対応していることを紹介した他、作成したパネルデータは WEB 公開して貸出していることが報告された。

名古屋市科学館は特別展と企画展を区別して実施しており、企画展は自主事業として学芸員が企画制作し、22 年度は「開館 60 周年記念企画展」が行われたこと、周年企画展は「過去を振り返るからこそ、未来を考え出せる」「来館者とも職員同士でも会話することが大事」であることが紹介された。

5. 静岡科学館企画展「大きくしてみた！」の見学及びオンライン中継紹介

オンライン中継は、ドコモビジネスソリューションズさんに協力してもらい Googleglass を用いて実施した。通信は問題無く行うことができ、新たなデバイスとして中継イベントの可能性を確かめることができた。一方で、Googleglass はカメラとモニタと通信装置が一体化したメガネ型のデバイスであり、頭に装着して用いるため、現地で企画展を見学した方々に加え、オンラインも同時に行ったことで、現地の人への対応で頷きをしたり視線を大きく動かすとオンライン上では画面がブレてしまうといった課題も浮かび上がった。

6. 各館の研修会参加アンケート

別紙 2 参照

7. 経費

別紙 3 参照

8. 研修会の様子

現地会場の様子

オンライン参加状況

事例発表の様子

企画展見学及び中継の様子